

経済・金融 フラッシュ

09年10-12月期資金循環統計:

個人金融資産は前年比で9期ぶりの増加

経済調査部門 副主任研究員 上野 剛志

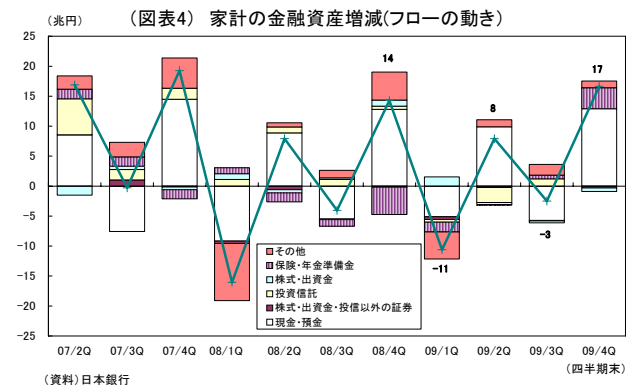
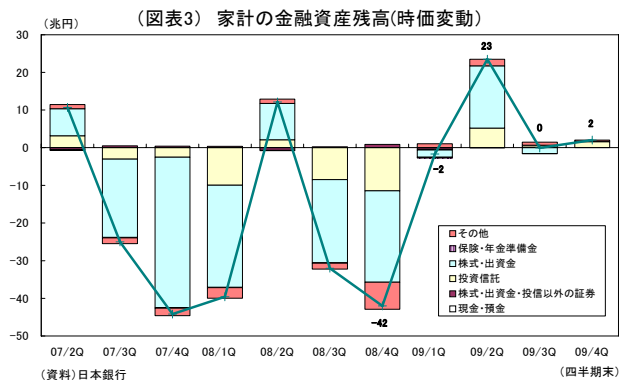
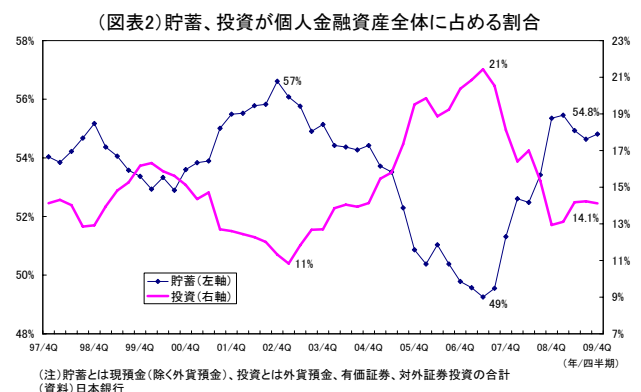
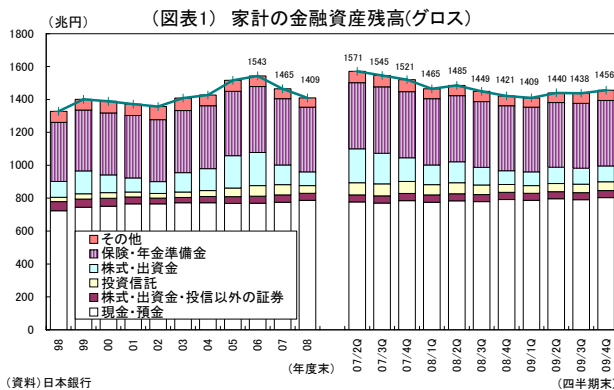
TEL:03-3512-1870 E-mail: tueno@nli-research.co.jp

1. 個人金融資産残高(09年10-12月期末): 前期比でも増加、貯蓄選好が強い

09年10-12月期末の個人金融資産残高は、7-9月期末から19兆円(1.3%)増加の1456兆円となった。前年同期比では35兆円(2.5%)の増加と、9四半期ぶりにプラスに転じた(図表1)。なお、暦年ベースでは3年ぶりの増加となる。

10-12月期も株価が狭いレンジでの推移となったが、前期に対してほぼ同様の水準を維持したため、時価変動の影響は2兆円と若干のプラスとなった(図表3)。

フローベースでは、従来、賞与の支給月にあたる12月を含むことから、10-12月期には現預金を中心に金融資産への流入超過となる傾向があり、今回も17兆円の流入超過となった(図表4)。

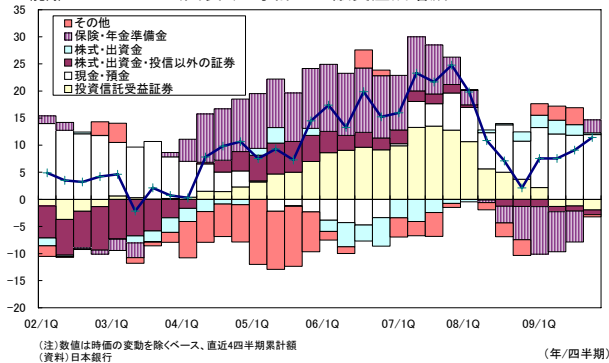


2. フロー(時価変動を除いた流出入額)の基調: 安全性重視の姿勢に変化なし

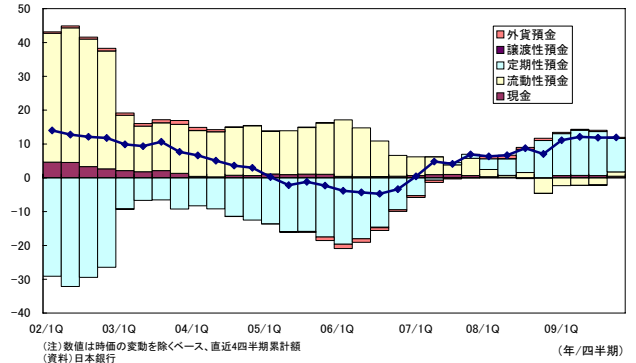
四半期ベースでフローの内訳を見るにあたり、季節要因を除くため、直近4四半期累計というやや長めの基調を捉えた動きをみると、03年を底に金融資産への資金流入額が増加、08年は増加ペースが鈍化した。09年に入り、再度流入額が増加基調にある(図表5)。

内訳を見ると、08年以降は現預金、特に定期性預金への資金流入が続いている一方、04年から07年における金融資産流入の牽引役であった投信は低迷が続いている。市場環境自体は一時期に比べ改善しているものの、金融危機の記憶が鮮明に残っているためか、安全性重視の姿勢に変化は見られない(図表5,6)。

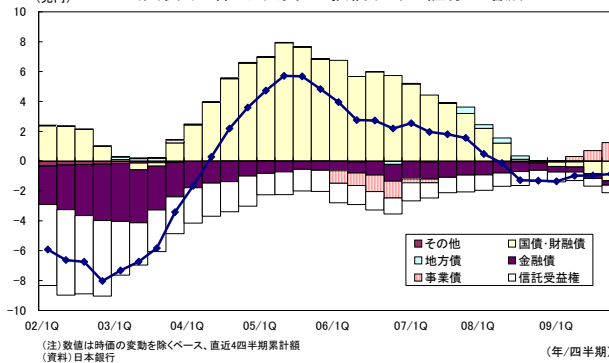
(図表5) 家計の金融資産残増減



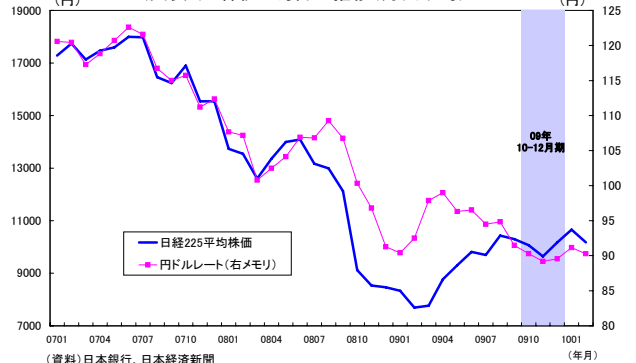
(図表6) 現金・預金の増減



(図表7) 株式・出資金・投信以外の証券の増減



(図表8) 株価と為替の推移(月次平均)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。